

日本学術会議の活動状況等に関する年次報告 (平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月) 作成の方針について (案)

1. 目的

社会に対して広く 1 年間の日本学術会議の活動について明らかにするとともに、外部評価有識者による外部評価の基礎資料とするため、平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月までの日本学術会議の活動状況を報告する冊子を作成する。

2. 構成

- ・構成については例年通り、「第 1 編 総論」と「第 2 編 活動報告」に分冊する。
- ・全編共通様式は、“MS ゴシック 10.5pt/A4 縦版横書き、余白各辺 20mm、40 文字×40 行”

	頁数の目安
第 1 編 総論	33 頁
「日本学術会議活動報告—第 23 期の総括— (平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月)」	
1. 表紙	1 頁
2. 日本学術会議憲章	1 頁
3. 目次	1 頁
4. 冒頭挨拶 (執筆担当：大西会長) …3 年目特筆事項、今期の総括・終了に関する所感、来期への希望事項等 23 期総括として 1 頁増量 (防災・減災、フューチャー・アース関連の記載等)	2 頁
5. 日本学術会議の活動 ※今期最後の年次報告となるため、各原稿において、「今期の総括・終了に関する所感、来期への希望事項等」を記載するよう依頼。	14 頁
① 政府及び社会に対する提言等 (執筆担当：井野瀬副会長) …主に科学と社会委員会、幹事会附置委員会、課題別委員会の活動について記載。部・分野別委員会は特に記載すべき事由がある場合のみ記載。	(2 頁)
② 国際的活動 (執筆担当：花木副会長) …主に国際委員会の活動について記載。	(2 頁)
③ 科学者ネットワークの構築 (執筆担当：向井副会長) …主に科学者委員会の活動について記載。	(2 頁)
④ 科学の知の普及に向けて (執筆担当：井野瀬副会長) …サイエンスカフェ、〈知の航海〉シリーズ、その他。	(1 頁)
⑤ 日本学術会議を支える 3 つの科学部門 (執筆担当：各部長) …各部の活動方針、3 年目の活動 (各部・分野別委員会からの提言・報告の内容 (大学教育の分野別質保証を除く。)、注目を集めたシンポジウム) を記載。	(6 頁) ※各部 2 頁

⑥ 若手アカデミーについて（執筆担当：若手アカデミー代表） …発足後の動きについて記載。	(1 頁)
【特集】	7～14 頁
① Gサイエンスについて （執筆担当：花木副会長、事務局）	(1-2 頁)
② 提言「学術の総合的发展をめざして—人文・社会科学からの提言—」 （執筆担当：井野瀬副会長または三成先生）	(1-2 頁)
③ 「安全保障と学術に関する検討委員会」 （執筆担当：杉田委員長）	(1-2 頁)
④ 「医学・医療領域におけるゲノム編集技術のあり方検討委員会」 （執筆担当：五十嵐委員長または石川副委員長）	(1-2 頁)
⑤ 「学術振興の観点から国立大学の教育研究と国による支援のあり方を考える検討委員会」 （執筆担当：福田委員長）	(1-2 頁)
⑥ 「学術研究推進のための研究資金制度のあり方に関する検討委員会」 （執筆担当：大西委員長）	(1-2 頁)
⑦ 「原子力利用の将来像についての検討委員会」 （執筆担当：大西委員長）	(1-2 頁)
6. 1 年の活動記録（カレンダー等）	3 頁
7. 学術会議の運営状況等（規則改定など）	1 頁
8. （参考）声明「科学者の行動規範—改訂版—」	2 頁
9. 裏表紙	1 頁

	頁数の目安
第2編 活動報告	196 頁
「日本学術会議活動報告—第 23 期の総括—（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月）」	
1. 表紙	1 頁
2. 目次	1 頁
3. 日本学術会議の概要（組織の概要）	1 頁
4. 組織ごとの活動報告 ※今期最後の年次報告となるため、各原稿において、「今期の総括・終了に関しての所感、来期への希望事項等」を記載するよう依頼。	143 頁
(1) 総会	(1 頁)
(2) 幹事会及び附置委員会（委員会：各 1/2 頁、分科会：各 1/3 頁）	(3 頁)
(3) 部（各 1 頁）	(3 頁)
(4) 機能別委員会（委員会：各 1/2 頁、分科会：各 1/3 頁）	(12 頁)
(5) 課題別委員会（〃）	(11 頁)
(6) 分野別委員会（〃）	(106 頁)

(7) 地区会議	(各 1/2 頁)	(4 頁)
(8) 若手アカデミー	(若手アカデミー会議：各 1/2 頁、分科会：各 1/3 頁)	(3 頁)
5. インパクトレポート		50 頁

3. 留意点

・記載に当たっては、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努める。関連するウェブサイト等があれば記載する。また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載する。

・第 1 編…前回より文責者を記載。

・第 2 編…期末を意識した様式へ変更し、期の総括報告となるような体裁へ変更。

4. 今後のスケジュール

6 月 2 日（金）	年次報告検討分科会開催：年次報告書の構成等について審議
6 月 23 日（金）	幹事会で年次報告書の①目的、構成等について了承を得る、 ②原稿執筆者を決定
6 月下旬	年次報告書の執筆依頼
7 月 21 日（金）	執筆原稿の〆切（執筆依頼の一か月後めど）
8 月 3 日（木）	活動報告について初稿を各執筆者に校正依頼
9 月上旬	年次報告書案について年次報告検討分科会で審議（分科会開催）
9 月 15 日（金）	幹事会で年次報告書案を了承
10 月 2 日（月）	総会で年次報告書を報告 ※前期（第 23 期）分科会委員長から報告。
11 月以降	外部評価有識者に外部評価を依頼（外部評価対応委員会開催）

**日本学術会議の活動状況等に関する年次報告
(平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月) 執筆要領 (案)**

1. 執筆者

		執筆者
第 1 編 総論		別紙方針の通り
第 2 編 活動報告		
・ 各部		部長
・ 幹事会附置委員会、機能別委員会、 分野別委員会、課題別委員会		委員長 ¹
・ 各委員会下の分科会 ※小委員会は対象外のため、執筆の必要はありません。 ²		分科会委員長
・ 若手アカデミー		代表
・ 若手アカデミー下の分科会		分科会委員長
・ 地区会議		地区代表幹事
その他（総会、幹事会等上記以外）		事務局

※全体構成については別途ご案内の「日本学術会議の活動状況等に関する年次報告（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月）作成方針」をご参照ください。

2. 原稿提出期限

○平成 29 年 7 月 21 日（金）（締切厳守）

（締切を過ぎてからご提出いただいた原稿は、掲載出来ない場合があります。）

3. 提出について

○提出・問い合わせ先

（本件事務担当）

日本学術会議事務局企画課審査係 相原

E-mail: kana.aihara.y2f@cao.go.jp

○提出にかかる注意事項

- ・ 提出内容がわかるよう、メール本文・題名等に委員会等名を記載下さい。
- ・ 提出方法については、親委員会でまとめていただいても、各分科会ごとでもどちらの方法でも構いません。

¹ 現時点において廃止済み委員会等も、対象期間内に活動したものについては原稿提出が必要になります。

² 小委員会について、必要な事項については所属分科会の原稿内に記載をお願いします。

4. 原稿の記載要領

(1) 書式および分量

- ・第1編/第2編（各部/委員会/分科会/地区会議/若手アカデミー）毎に書式及び目安となる分量等が異なります。以下をご確認の上、御執筆をお願いします。

	様式	分量
第1編 総論	様式 1 ³	別紙方針の通り
第2編 活動報告		
・ 各部	様式 2	1 頁
・ 幹事会附置委員会、機能別委員会、 分野別委員会、課題別委員会	様式 3	1/2 頁
・ 各委員会下の分科会		1/3 頁
・ 若手アカデミー		1/2 頁
・ 若手アカデミー下の分科会		1/3 頁
・ 地区会議	様式 4	1/2 頁
その他（総会、幹事会等上記以外）	様式 2	1 頁

※共通

- ・ A 4 タテ版横書き、余白各辺 20mm、40 文字×40 行
- ・ フォントはMSゴシック 10.5pt

(2) 執筆内容について

- ・対象期間内（平成 28 年 10 月～平成 29 年 9 月）の各活動について執筆をお願いします。
なお、明確かつ簡潔な資料となるよう以下につき御協力ください。
 - ◇ 箇条書き・である調
 - ◇ 年号は和暦（平成〇〇年〇月）記載（※国際案件は西暦と和暦の並記可）
 - ◇ 一般には難解な専門用語の使用は極力避け、使用する場合は説明を追記
 - ◇ URL や図表の使用なども使用し、見やすい原稿とすること
 - ◇ 発出済みの提言等のフォローアップがあれば積極的に記載すること
- ・年次報告は対外的に日本学術会議の活動を周知するものになりますので、審議内容、具体的な成果など、社会的意義が明らかになるような内容の記載をお願いいたします。
※なお、年次報告は外部評価の基礎資料となります。
- ・平仄を揃えるため、様式等は事務局において修正させていただく可能性がございます。
- ・一度提出いただきました後の修正・追加、または事前に修正発生がわかっている場合等、ご不明な点等ございましたら本件事務担当の企画課審査係へご連絡ください。
- ・前回までの年次報告書は、日本学術会議ホームページ下記 URL で御覧いただけます。
(http://www.scj.go.jp/ja/scj/nenji_hyoka/index.html)

³ 第1編については、各執筆者用に審査係から様式をお送りします。

1. (見出し)

(1) ○○○○
○○○～

第 ○ 部			
部長		副部長	
幹事			
主要な活動	審議内容		
	意思の表出（※見込み含む）		
	開催シンポジウム等		
開催状況			
第 23 期（3 年間）における成果、課題等			

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成 27 年 4 月 8 日、平成 27 年 5 月 13 日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください。メールでの意見交換等は基本記載不要ですが、記載いただく場合はその旨がわかるように明記してください。

〇〇委員会（〇〇分科会）					
委員長		副委員長		幹事	
主な活動	審議内容				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
開催状況					
第 23 期（3 年間）における成果、課題等					

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成 27 年 4 月 8 日、平成 27 年 5 月 13 日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください。メールでの意見交換等は基本記載不要ですが、記載いただく場合はその旨がわかるように明記してください。

■分量

- ・委員会・若手アカデミー…約 1 / 2 ページ
- ・分科会…約 1 / 3 ページ

〇〇地区会議		代表幹事	
主な活動	審議内容		
	開催シンポジウム等		
開催状況			
第 23 期 (3 年間) における成果、課 題等			

■記載いただく内容は、外部評価有識者による外部評価を受けることも念頭に置き、活動の趣旨や審議内容、具体的にどのような成果があがったのか、提言等のフォローアップ等など、数値や図、写真も用いつつ分かりやすく述べるよう努めてください。関連するウェブサイト等があれば記載してください。

また、前年度の活動実績に対する外部評価（参考資料参照）にて指摘された事項については、その後の進捗がある場合はできる限り記載してください。

■開催状況の記載について

（例）平成 27 年 4 月 8 日、平成 27 年 5 月 13 日※メール、など

※正式なメール会議は記載ください。メールでの意見交換等は基本記載不要ですが、記載いただく場合はその旨がわかるように明記してください。

■分量…約 1 / 2 ページ